

特集

日本の財産

BS

BSビッグバンエナジー

衛星基幹放送

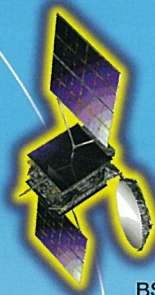
BSのインフラ

ほぼ「王のホシ」

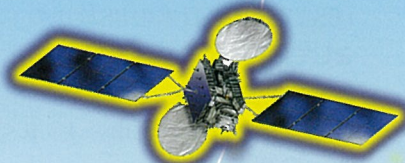
5機体制



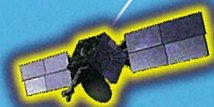
BSAT-3a



BSAT-3b



BSAT-3c



BSAT-2c



BSAT-2a

日米戦争敗北のツケは広範に亘った。その一つが、いろはの「イの字」のテレビジョン方式の開発やレーダー・ロケット技術の研究凍結などであった。1964年の東京五輪後に、NHK技術者はハイビジョン、放送衛星(BS)などの独自の次世代テレビジョン技術の開発に取り組んだ(政府もがんばった)。そのHDとBSは安定し、幅広い活用期を迎えている。2011年10月1日から、衛星放送ビジネスは新時代を迎える。月刊「ニューメディア」の軌跡は、HDとBS開発史と軌を一にして今日を迎えている。簡単ではあるがBSの簡単な開発史をまとめておきたい。BSの軌道位置は東経110度である。中国でお目出度い数字(年齢)に「王寿」というのがある。王は数字的に分解すると「111」。東経110度に浮かぶBSを、ほぼ「王のホシ」と呼ぶのは、そういう意味がある。BS開発の略史を振り返り、それがいかに多くの資金と放送・衛星技術者の叡智を結集したものかを再認識し、かけがえのない日本の財産であることを、新BSサービス開始にあたり、相互に認識しておきたい。衛星放送業界の年表作成については、NHK、WOWOW、B-SATの関係者の皆さんの協力を得た。感謝したい。

(構成:天野昭/写真提供:B-SAT社、BSAT-2=Obital社、BSAT-3=LM社)

最高殊勲賞のホシ BSAT-1bの“引退”

2011年8月30日(火)16:00ごろから、埼玉県川口市のB-SAT川口衛星管制センターに約30人ばかりの人が集まった。彼らはなにやら管制センターのモニターを映し出している大型薄型画面を注視

している。17:00になると画面に向かって全員が拍手をした。BSAT-3cの打ち上げは8月7日の早朝に終わっている。何でみんな拍手をしているのか。

それは、BSAT-1bの“デオービット”式に集まった、ほぼ「王のホシ」(BSAT-1b)の関係者の喜びと感謝に満ちた拍手だった。“デオービット”とは、燃料が切れ

て役割が終わるホシを静止軌道から、逃がす操作のことだ。縁起が悪いかもしれないが、そこに集まっていた人たちは、ホシの“おくり人”たちなのだった。

BSAT-1bは、年表をご覧いただければお分かりのように、1998年4月29日に打ち上げられたホシだ。

じつはBSAT-1bがもしほほ「王のホ